

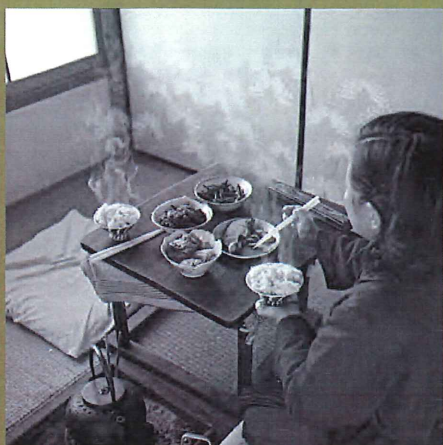
隔離

のなかの

食

生きるために

悦びのために



かつてのハンセン病療養所では、経費と人手の不足を補うために、入所者が食料生産、炊事、配食などの仕事をしていました。たとえ^{くわ}鋏を握る手が傷ついても、感覚を失った手に鍋や熱湯でやけどをしても、食に関わるさまざまな仕事に自分たちも携わらなければなりません。その一方で、故郷へ帰る望みを絶たれ、徐々に進んでゆく障害への不安をかかえながら療養生活を送る入所者にとって、食事は大きな楽しみでもありました。そのため入所者たちは、食をめぐる環境を充実させるために、多くの努力を重ねてきたのです。

戦後、医療と生活の改善を求める患者運動では食の向上が重要な課題となりました。入所者たちは食の仕事に^{にな}担う職員の配置や、体調と年齢に応じた献立の実現などを求め続けました。

食材を外から仕入れ、調理や配食を職員が行うようになってからも、変化に乏しくらしに彩りを添え、少しでも口に合うものを食べるために、自分好みの食膳を整えることもあります。また故郷から離れて集団生活を送る入所者にとって、食は生まれ育った土地や家族との食卓を思い出す^{よみこ}すがでもあります。

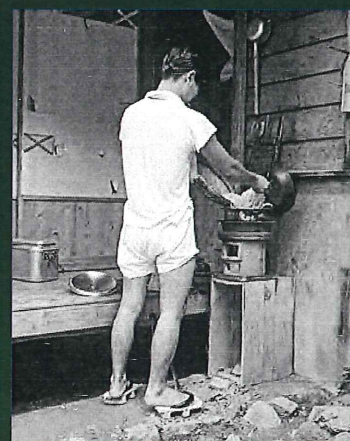
本展では、療養所での食のしくみと、隔離のなかを生きるため、そしてささやかな^{よみこ}喜びを作り出すための食をめぐる営みについてお伝えします。



押し寿司の型 昭和初期-1960年代
菊池恵楓園 菊池恵楓園入所者自治会所蔵



男子不自由舎での食事 1955年 長島愛生園 館蔵



麺を炒める 1955年 奄美和光園 館蔵

付帯事業

- ギャラリートーク ①10/22(日) ②11/11(土) ③12/23(土) 各回午後2時～ 約1時間
- 講演会 (ハンセン病療養所における食をめぐる近年の取り組みについて[予定] 詳細は当館ホームページ等にてお知らせいたします)

国立ハンセン病資料館

The National Hansen's Disease Museum

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13

TEL 042-396-2909 | FAX 042-396-2981

URL <http://www.hansen-dis.jp/>

開館時間 午前9時30分～午後4時30分 (入館は午後4時まで)

休館日 毎週月曜日 (祝日の場合は開館) | 国民の祝日の翌日 (土曜・日曜を除く)

入館料 無料

交通 西武池袋線 | 清瀬駅南口より西武バス「久米川駅北口」行 約10分
西武新宿線 | 久米川駅北口より西武バス「清瀬駅南口」行 約20分
— いずれもバス停留所「ハンセン病資料館」で下車すぐ

JR武蔵野線 | 新秋津駅より徒歩約20分

| 新秋津駅より西武バス「久米川駅北口」行 約10分、

バス停留所「全生園前」で下車、徒歩約10分

関越自動車道 所沢I.C.より約30分 (駐車場あり)



表面写真：左 上から ある日の献立 (1955年 多磨全生園 館蔵) | 醤油の配給 (1955年 東北新生園 館蔵) | 夫婦舎での食事 (1955年 栗生楽生園 館蔵) | 鉄鍋 (昭和初期-1950年代 菊池恵楓園 菊池恵楓園入所者自治会所蔵)

右 上から 食住 (1950年代-1980年代 邑久光明園 邑久光明園入所者自治会所蔵) | 病棟での食事 (1953年 多磨全生園 館蔵) | 男子一般舎での食事 (1955年 東北新生園 館蔵) | 食配作業 (1955年 菊池恵楓園 館蔵)。